

# 渋谷女子新聞

発行者  
渋谷女子高校  
新聞委員会  
(2-5)

発行日  
R6年10月11日

特別支援学校と  
特別支援学級

## 共生社会の実現に向けて

日本政府は、我が国が目指すべき社会として、国民誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う「共生社会」を掲げています。今回は道徳教育の観点から、この「共生社会」の実現のために必要な知識を広げるとい意味で、障害について、そして私たちと同じ学生が通う特別支援学校・特別支援学級について調べたことを紹介します。

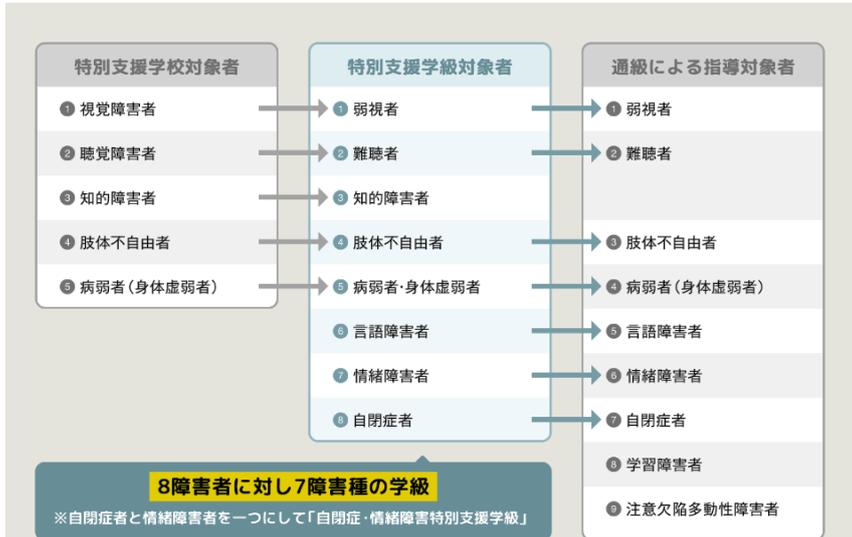
進ずる教育を施すとはありますが、それ以上に生活上の困難を克服するための技能・知識の習得と生活上の自立を重要視します。具体例としては、盲学校・聾学校などがあります。一方、特別支援学級は、学習に不安を抱える児童・生徒に対して生活上の自立よりも学力向上を目的としています。特別支援学級の設置については、左図のようになっています。

なります。学校教育法上、特別支援学校は小中学校・高校に支援する範囲が異なり、特別支援学級では特別支援学校と

### 障害の種類 (主なものとして一部を紹介)

視覚障害	・盲・・・視覚による教育が不可能又は著しく困難で、主として触覚及び聴覚など、視覚以外の感覚を利用するの教育が必要な程度 ・弱視・・・視覚による教育は可能であるが、文字の拡大など教育上の配慮が必要な程度
聴覚障害	・聾・・・両耳の聴力損失 60 デシベル以上、又は補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能、又は著しく困難な程度 ・難聴・・・両耳の聴力損失 60 デシベル未満、又は補聴器を使用すれば通常の話声を解することが可能な程度
肢体不自由	・上肢機能障害・・・腕、手、指及び各関節に関する機能障害 ・下肢機能障害・・・脚、足指及び各関節に関する機能障害 等
発達障害	・SLD・・・限局性学習症/限局性学習障害 ・ADHD・・・注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害 ・ASD・・・自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害
精神障害	統合失調症、気分障害、神経症性障害等、摂食障害、睡眠障害 等

参考:『合理的配慮ハンドブック』(独立行政法人 日本学生支援機構)



特別支援教育のトピラ 「障害種別の特別支援学級」(東京書籍)  
<https://tokushi-tobira.jp/teacher/specialclass/011.html> (2024年10月2日)

## 株式会社かんぽ生命保険のダイバーシティの取り組み

※ダイバーシティ (Diversity) とは、直訳で「多様性」を意味する言葉。

近年、障がい者を雇用する施設を増設すると同時に働きやすい環境を作る活動が盛んになってきました。株式会社かんぽ生命保険には障がい者雇用領域の一つとして、都内の大崎オフィス内に障がい者スタッフがいる



日本郵政株式会社 JP CAST  
<https://www.jpcast.japanpost.jp/2024/01/381.html>  
(2024年1月9日)

くカフェ「Eat+Care」があります。店内でも焼き上げられ、社員からの人気も上々のようです。この事業を担当したダイバーシティ推進室の担当者は、「互いの個を尊重し、認め・高め合い、それぞれの役割を果たし、成果を上げることと多様化する社会ニーズに応え、社員・お客さまの満足へとつなげる」という、ダイバーシティ方針、を社内に浸透させるべく、さまざまな活動に取り組んでいると話しています。今回の取り組みのきっかけの一つは、社内事情でカフェの運営を自前にする検討を始めた時に、それを障がい者スタッフの雇用の機会にできないかと思いついたことだそう。オープンまでには毎日のように難題が持ち上がったそうです。プロジェクトチームが目指したのは「障がいの有無にかかわらず、誰もが笑顔になれるカフェ」。多くの社員が

### おわりに

渋谷女子のみなさんが通ってきた小学校や中学校にも特別支援学級はあったと思います。また近隣地域には特別支援学校もあります。これまでの私

たちは、障害のある人たちのことをきちんと理解し、人格を尊重することができていたでしょうか。「Eat+Care」の取り組みのように世間は進んでいます。私たちも共生社会の実現に向けて、やれることを柔軟に考えて、積極的に取り組んでいきたいと思います。

障がいも、人それぞれの個性の一つ。まずは、一人ひとりの個性をしっかりと理解して受け入れる。そして、みんながいっしょに笑顔で働ける環境づくりに取り組んでいきたいと担当者は語っていました。今後のカフェの展開はもちろん、かんぽ生命保険のダイバーシティの取り組みに注目です。